

平成23年度春の叙勲・褒章受章者

6月18日に叙勲及び褒章受章者が発表され、当会から以下の方々から叙勲・褒章の栄に浴されました。心よりお慶び申し上げます。

叙勲者の横顔



旭日双光章（弁理士業務功労）

たか はし よし やす
高 橋 祥 泰

学歴・職歴

昭和36年 岐阜大学 工学部工業化学科 卒業
(現在) あいち国際特許事務所

弁理士会歴

昭和49年 弁理士登録(7914)
平成8年～10年 弁理士会常議員
平成8年～9年 常議員会第一委員会 委員
平成9年～10年 常議員会第一委員会 副委員長
平成9年～10年 常議員会監査委員会 委員
平成11年～12年 研修所 運営委員(部長)
平成12年～13年 東海支部 支部幹事(副支部長)
平成13年～14年 総合政策検討委員会 副委員長
平成13年～14年 東海支部 支部監査役
平成14年～15年 東海支部 支部幹事(支部長)
平成15年～16年 総合政策検討委員会 副委員長
平成16年～17年 役員・組織検討委員会 副委員長
平成17年～18年 全国支部化推進委員会 副委員長
平成18年～19年 日本弁理士会副会長
平成19年～21年 知的財産支援センター 副センター長
平成21年～23年 日本弁理士会常議員
平成21年～22年 常議員会第四委員会 委員
平成22年～23年 常議員会調整委員会 委員
平成22年～23年 常議員会第一委員会 委員長

公職

平成21年～22年 工業所有権審議会試験委員

賞

平成10年 弁理士会特別功労表彰
平成11年 弁理士会永年功労表彰
平成15年 日本弁理士会特別功労表彰
平成19年 日本弁理士会特別功労表彰
平成21年 弁理士制度110周年記念式典特別功労者表彰
平成22年 日本弁理士会感謝状

受章に浴して

この度は、はからずも叙勲の栄に浴し、心より御礼申し上げます。これも偏に日本弁理士会の各先生、事務局の皆様、更には私の人生航路においてお逢いできました多くの皆様の心温まる、ご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝申し上げます。

東日本大震災に起因するこの国難の時期に、かかる栄誉を賜りましたこと誠に恐縮致しております。

振り返って見ますと、縁あって、30数年前に薬品会社の技術部から自動車関連研究所の特許部に転職致しました。丁度その頃より、日米特許摩擦問題が発生し、また出願審査請求、多項制、国内優先権など多くの新制度が採用され、種々の場で議論に参加させて頂きました。

また、25年程前から大学や種々の企業への特許教育に従事させて頂きました。当会役員時代には、会務の幅広さ、政治、経済の奥深さなども学び、大きな知的財産を戴きました。

今後は、この栄誉を心に刻み、些かなりともご芳情に報いたいと存じます。何卒、今後とも変らぬご厚誼、ご指導を賜りますようお願いいたします。



旭日双光章 (弁理士業務功労)

さな だ しゅう じ
真 田 修 治

学歴・職歴

昭和 39 年 日本大学 理工学部機械工学科 卒業
(現在) 真田特許事務所

弁理士会暦

昭和 52 年 弁理士登録 (8263)
昭和 63 年～平成 2 年 弁理士会常議員
平成 2 年～ 3 年 特許制度昂揚普及委員会 副委員長
平成 3 年～ 4 年 会館委員会 副委員長
平成 5 年～ 6 年 研修所 運営委員 (部長)
平成 5 年～ 6 年 情報資料委員会 副委員長
平成 6 年～ 7 年 情報資料委員会 委員長
平成 11 年～ 12 年 弁理士会理事 (副会長)
平成 12 年～ 13 年 日本知的財産仲裁センター 監事
平成 12 年～ 13 年 意匠委員会 副委員長
平成 12 年～ 13 年 工業所有権仲裁センター支援委員会 副委員長
平成 13 年～ 14 年 日本知的財産仲裁センター支援委員会 副委員長
平成 14 年～ 15 年 ADR 推進機構 委員長
平成 14 年～ 15 年 日本知的財産仲裁センター 副運営委員長
平成 16 年～ 18 年 日本弁理士会執行補佐役
平成 17 年～ 18 年 日本知的財産仲裁センター 副センター長
平成 21 年～ 22 年 日本弁理士会執行理事
平成 21 年～ 23 年 日本弁理士会常議員
平成 22 年～ 23 年 常議員会調整委員会 委員長
平成 22 年～ 23 年 互選による常議員会議長 全回

公 職

平成 19 年～ 20 年 工業所有権審議会臨時委員
平成 21 年 2 月～ 11 月 工業所有権審議会試験委員
平成 22 年 2 月～ 11 月 工業所有権審議会試験委員
平成 23 年～ 工業所有権審議会試験委員

賞

平成 6 年 弁理士会特別功労表彰
平成 12 年 弁理士会特別功労表彰
平成 13 年 日本弁理士会永年功労表彰
平成 15 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 18 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 弁理士制度 110 周年記念式典特別功労者表彰
平成 22 年 日本弁理士会感謝状
平成 22 年 日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して

この度は、図らずも叙勲の栄に浴し、身に余る光栄と存じております。
これも偏に長年に亘って、多くの皆様よりいただきましたご指導ご鞭撻の賜であり、深く感謝申し上げます。
弁理士登録してから 33 年余が経過しましたが、これまであまり過去を振り返る余裕もなく弁理士業務をひたすら遂行する一方で、日本弁理士会におきましては、それぞれの立場において、非力ながら任務を遂行してまいりました。
中でも印象が深く残っていますのは、平成 11 年の副会長の時代であり、幸田会長 (当時) のもとで、長年に亘って歴代の理事会や委員会でご若労いただいた 80 年ぶりの弁理士法大改正の総仕上げの年に当たり、弁理士法の最終条文の検討と理事会の意思決定に参画させていただいたことでもあります。
このときに、最も感銘を受けた出来事を披露させていただきますと、この法案は、私共理事の任期の最後の日、即ち、平成 12 年 3 月 31 日に参議院本会議で可決成立した訳ですが、その参議院本会議場で弁理士法改正案が可決される瞬間を目の当たりにしたとき、それまでのいろいろなことが思い起こされ、感動で目頭が熱くなるのを禁じ得ませんでした。
今後は、この榮譽に恥じる事のないよう一層の精進を心掛ける所存でありますので、相変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



旭日双光章（弁理士業務功労）

きど かず ひこ
木戸 一彦

学歴・職歴

昭和 38 年 中央大学理工学部精密工学科 卒業
（現在）木戸特許事務所

弁理士会暦

昭和 55 年 弁理士登録（8621 号）
昭和 62 年～ 63 年 常議員会会計監査準備委員会 副委員長
昭和 63 年～平成 1 年 会計税務委員会 委員長
平成 4 年～ 5 年 意匠委員会 副委員長
平成 5 年～ 6 年 意匠委員会 委員長
平成 6 年～ 7 年 弁理士会理事 副会長
平成 8 年～ 9 年 財務委員会 副委員長
平成 10 年～ 14 年 中央知的財産研究所 副所長
平成 14 年～ 16 年 中央知的財産研究所 所長
平成 16 年～ 17 年 弁理士推薦委員会 副委員長
平成 16 年～ 18 年 日本弁理士会執行補佐役
平成 19 年～ 21 年 日本弁理士会常議員
平成 19 年～ 20 年 常議員会第二委員会 副委員長
平成 20 年～ 21 年 常議員会調整委員会 委員長
平成 20 年～ 21 年 互選による常議員会議長 全回

公 職

平成 8 年～ 10 年 弁理士審査会委員

賞

平成 3 年 弁理士会特別功労表彰
平成 7 年 弁理士会特別功労表彰
平成 10 年 弁理士会感謝状
平成 11 年 弁理士制度 100 周年記念式典特別功労者表彰
平成 13 年 日本弁理士会永年功労表彰
平成 16 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 18 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して

去る 7 月 5 日（火）午前に菅直人首相の名で経済産業副大臣から勲記・勲章の伝達があり、午後から家内共々皇居に参内し、天皇陛下に拝謁を賜り、大変感激致しました。

この度の受章に当たりましては、特許庁、日本弁理士会、諸先輩の方々、友人及びその他の多くの関係者の皆様の多年にわたるご指導、ご支援及びご尽力に深く感謝申し上げます。

また、日本弁理士会をはじめとする関係団体や多くの皆様よりご丁寧なる祝意を頂きまして誠にありがとうございました。

振り返ってみますと、弁理士登録から今日まであっという間に時がすぎたと感じています。

例えば、副会長として阪神・淡路大震災やサリン事件等の対応に尽力したことが特に心に残っています。

ここ十数年の知的財産に関する環境は大きく変化にして参りましたが、このような時代に知的財産制度がより良く世の中の役にたつように、今暫く弁理士業務に励み、微力ながら尽力したいと存じています。

ありがとうございました。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

なが お たつ や
長 尾 達 也

学歴・職歴

昭和 38 年 大阪府立大学工業短期部機械科 卒業
昭和 47 年 中央大学法学部 卒業
昭和 38 年 広島通商産業局 入局
昭和 39 年 特許庁入庁
昭和 43 ～ 52 年 審査官
昭和 52 ～ 53 年 審判官
昭和 53 ～ 59 年 審査官
昭和 59 ～ 60 年 上席総括審査官
昭和 60 ～ 62 年 審査長
昭和 63 ～平成 2 年 審判長
平成 2 ～ 6 年 審判部部門長
平成 6 年 特許庁退官
(現在) 長尾特許事務所

弁理士会暦

平成 6 年 弁理士登録 (10528)

受章に浴して

この度は、叙勲の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。

これも、皆様方のご指導、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

また、この度の受賞に際し、弁理士会会長をはじめ多くの方々から祝意を頂き、誠にありがとうございました。

特許庁を退職した年の平成 6 年に特許事務所を開設して以来、妻と二人だけの小さな事務所で今日まで仕事にも恵まれ充実した日々を健康に過ごすことができ、また伝達式、天皇陛下拝謁の感動を二人で分かち合えることができたことに感謝しております。

これからも、微力ながら、より有効な権利を、一つでもより多く獲得することができる弁理士として、日々精進して参りたいと念じております。

今度とも、よろしく願いいたします。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

たけ い ひで ひこ
武 井 秀 彦

学歴・職歴

昭和 40 年 日本大学理工学部工業化学科 卒業
昭和 40 年 特許庁 入庁
昭和 44 年～ 51 年 審査官
昭和 54 年 8 月～同 9 月 審査官
昭和 54 年～ 56 年 審判官
昭和 56 年～ 59 年 審査官
昭和 59 年～ 61 年 審査長
昭和 61 年～ 63 年 審査第一部出願第一課分類管理室長
昭和 63 年～ 63 年 総務部特許情報管理課長
昭和 63 年～平成 1 年 審判長
平成 1 年～ 4 年 審査長
平成 4 年～ 5 年 審判長
平成 5 年～ 6 年 工業所有権研修所長
平成 6 年 特許庁退官
(現在) 武井特許事務所

弁理士会暦

平成 6 年 弁理士登録 (10568 号)

受章に浴して

この度、叙勲の榮に浴することができ、非常に光栄です。また、今回の受賞にあたり、弁理士会をはじめ多くの関係者各位からご丁寧なる祝意をいただき、誠にありがとうございます。

振り返ってみますと、特許庁で 30 年弱の間、特実の審査、審判業務に加え、PCT 制度の導入準備や F タームシステム開発の業務等、各種周辺業務・関連業務を経験することができ、また、出向時には、多くの開発途上国における鉱工業開発プロジェクトの審査、評価業務の経験を通じて、技術の経済的側面の重要性を教えられ、砂漠やジャングルの中の開発サイトにて、技術移転のあり方や特許制度の意義と限界、“事業は人なり”、巨大さや強さでなく“環境変化を耐えうる柔軟性”のみが生き残る条件であること等、色々勉強させていただき、有難いことと思っています。

これら拙い経験を糧にして、今後も、一弁理士として、社会のため微力を尽くさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

ふるみや いっせき
古宮 一石

学歴・職歴

昭和 41 年 日本大学理工学部工業化学科卒業
昭和 41 年 特許庁入庁,
昭和 45 年～ 55 年 審査官
昭和 55 年～ 58 年 審判官
昭和 55 年～ 57 年 科学技術庁に出向
昭和 58 年～ 62 年 審査官
昭和 63 年～平成 2 年 審査長
平成 2 年 7 月～同 9 月 審判長
平成 2 年～ 4 年 研究休職 (社団法人発明協会出向)
平成 4 年～ 6 年 審判長
平成 7 年 特許庁退官
平成 14 年～ 日本大学生産工学部数理情報工学科講師
(現在) 田中宏特許事務所

弁理士会暦

平成 7 年 弁理士登録 (10653 号)

受章に浴して

この度は、叙勲の栄に浴し、身に余る光栄であることを実感し、感激いたしております。

これもひとえに特許庁在職中の先輩、同僚、及び後輩の皆様方、出向した折の科学技術庁、発明協会、産業技術総合研究所、電力中央研究所、及び企業の方々、弁理士や弁護士の方々、大学の先生、先輩、同期の皆様及び後輩の皆様方の、ご支援、ご指導及びご鞭撻の賜物の結果によるものと心より感謝いたしております。

振り返ってみますと、私が特許庁に入庁した頃に担当した石油化学は完成時期を迎えておりました。

従来仕事の集大成となる時期でした。やがて、製品や構成するシステム等にも影響を与えるところとなり、産業としてこれからは軸足を移す結果、産業構造も大きく変化し、物流部門や測定技術関連の技術が充実期を迎えました。

時代の変化及び技術の変化を実感しながら、仕事を進めるのは楽しいものでした。

最近におきましても、新たな技術の変化が感じられます。

新たな変化に対処すべく、積極的に仕事に取り組んでまいりたいと思います。

これまでも増して、皆様にご指導をいただきながら、一層の努力をする所存です。

今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。